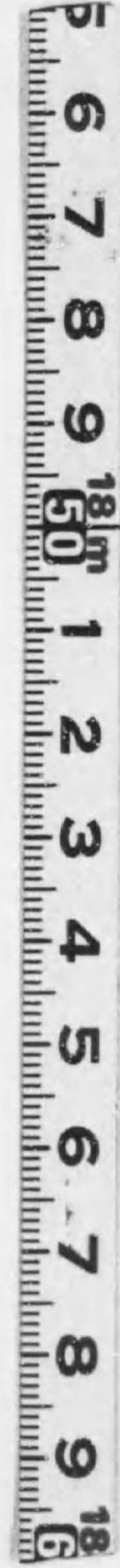


特 116

849A

四市場達觀秘錄
完



始



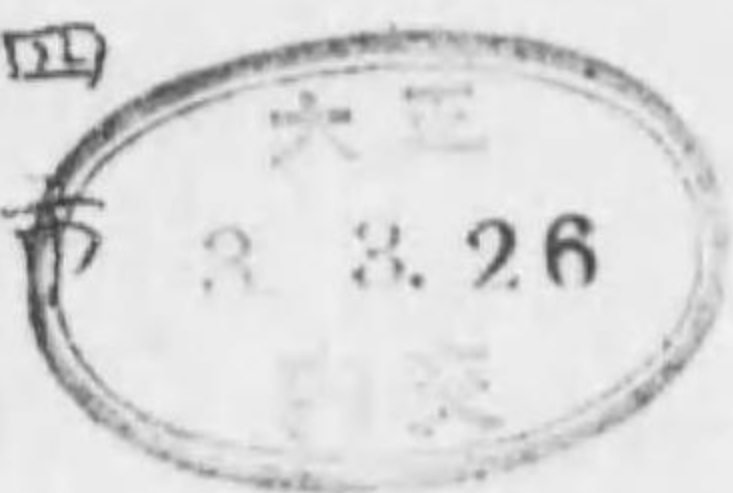
特116
849



緒

言

東京毎日新聞社辞任の紀念として、客秋四
 場達觀録を發表し有志の諸士に頌ちしに着々
 奇功を収められ望外の感謝を寄せらるゝと共
 に今春續編の發表を促さること頻ふり著者の
 光榮之に如かんや、唯恐る言ふべきこと多く
 して記す所僅々數節却て讀者の疑義を生ぜん
 を、然れども大勢を洞觀し、方針を豫測する
 を得ば即ち本書の目的達す、敢て數十萬言を
 臚陳して反覆細叙するの要なからんか、惟ふ



に假すに時日を以てし、一々例證譬喩を擧げて誨述せば或は本書の利用一層洪大なる、然れども未來を卜定するに足るべき資料を、滔々説去り説来らば回を累年を積むと雖も猶且乏しかりんのみ、故に本書は軌近の所説を参酌し以て醇を採り之を載録すること、せり、誦味の文能く其意を盡さざる処あるは實に忙手急心之を修正するに違あらば寔に萬止むを得ざる者あり、各位希くば寛恕せよ

大正參年參月拾參日

向陽識

四市場達觀秘録

大正參年參月拾壹日編

昨年九月四市場達觀秘録を發表せし當時の株式界は實に百餘日に渉る不勢にして、新東株は百圓ドタ内外を往來し大株は百〇三五圓内外此他の諸株著しき安直にありて市場は軟風吹き荒び、驚怖と危惧は滿街に滿ちたり此時に當つて我が四市場達觀秘録は九月八日宣言を發して曰く此相場は確に上進す買つ一

貫ふり然れども新東株の百十九円内外に達せば低落す警戒を要すと述べ、……、期末に在ては高直貳拾五圓に驀騰するを叫び、此直項に達せば形勢一轉して拾五圓臺に暴落するを致して當業者の参考に資し置けり、果して孰れも我四市場達觀の指せる直項を實現し偉大なる鐵案に介讓者は畏悦をしぬ、爰に発表する本年度達觀録の算價……方針何れも前回発表の分と同一の至誠を瀝ぎて纂す諸士大に奮へ

株式界

ローターリ式相場は昨秋に於て出盡したりと思きや、今又株式市場は漸落の歩調を辿つて市場總悲觀に一致せる者の如く誠に好しからぬ事より、ドー云ふ者か我達觀秘録と株の介岐と云ふ事に、何か奇縁でも結ばれて居るのか達觀を發表する頃はイッデモ株式相場が天井か底直に近づいて居るので實に不思議

議でありぬのじや、前回然り前々回然りて又
今回も後で判るが底直に近づいて居るのである
餘談は別として、本年一月以来の相場即ち
春相場程一寸意外な氣勢を現した例は少い内
とせぬばふりぬ、何故かと云ふに昨秋百餘日
も費つて所謂底固めをした相場が漸く十二月
に極めて穩健なる歩調で立直った事であるか
ら誰しも春高を聯想し極月の金策期を厭はず
買て越年した者が多かたのに、一月癸會後僅
に数日おらずして早や形勢不良とふり中旬に

入り不良は險悪を帯び二月に至り買方失望相
場の端を拓き三月に入るや愈々硬軍總落城カ
悲況を現出し買方一派に慘々たる痛手を負は
しめた、嗚呼まゝにふりぬ世の中哉
全体株式は米と違つて地場賣の客買と相場が
定つて居るので是非高くふけりや素人は儲か
る者でふい、勿論客筋で賣る人も随分有るに
はあるが素人で賣で儲けた人は極めて少ふい
失敬だが儲かつた様で實際の通計をして見れ
ば儲かつて居ふいのである、故に客筋たる者

は巧者振て賣るよりか出来る丈けの辛抱をし
て爰許ぞと云ふ処より買思惑を立てるに限る
殊に利束せ買の場合にふるゝと賣はズンノ、直
が下へ放れるけれど上がる方にふるゝと特種り
場合を除くの外は意外ふ飛直がふいから是丈
けでも勘定の可い事とふるゝ、其処で當面の問
題たる政界の事だが過敏来より紛々たる騒か
せて株式市場も常に不安に襲はれ安直の副因
とふつたなれど吾人の天眼鏡を以て窺はゞ大
局は毫も心配無用で結局成る様に納つて平穩

に復歸する事になるから、樂々ふ買の種蒔も
餘り悠々構へる事は出来まい、今は唯モ一政
争の頂點であるから何か異つた問題でも起り
はせぬかと神経過敏眼で見るとは無理のふい処
であるが茲が相場ふり天井近しとか底直近し
と云ふ処であるから新聞の駄法螺に釣はれぬ
様自己の觀念を固めぬばふらぬ、再言す多く
の主力株第一底直は昨秋濟んで居るのじや

株式の大勢如何

吾人の経営する東京之市場を讀で居る人は一月早々人より先に賣込で居る苦トヤ、若し讀者で賣込で居ふ人あらば其人は餘程の不運家とせねばふらぬナゼならば株の下かると云ふ事は昨年十二月の廿日頃から毎晝警告して一月に入り一層猛烈に大警告をして買いたからである、此大警告は確に利いた、利益を得

る得ふいは別問題として損を免れた丈けでも又実株筋ふら其の手苦をした丈けでも大した者とせねばふらぬ、是は決して自家廣告の説ではふら事實だから事實として心得の爲めに特録するのである、扱株式今後の大勢であるが昨年十二月から本年一月上旬の満四十日間と云ふ者は殆ど賣を口にする者ふかつた総買入氣であつた、此総買ふる者は材料の出揃と人心の高潮により現る者で斯うふると警告を始めねば不可ぬので、今度もロータリー第二

回反動の打撃と政界の変調乃至取引所法案等
にて阪軍の大頭真先に而も思切て大投けに投
げ出したのと此他大小の買方連が舉り舉て投げ
たので別段有力筋の追撃もふいに瓦落を演じ
て市場は風聲鶴唳に河ともかともお話になら
ぬ總弱氣と化した、爰だ頭を冷たくするは即
ち爰を能く思案に思案を運りして将来に臨ま
ぬばおらぬ、回顧す吾人が毎夕新聞社に在職
する當時だ即ち談社秘電報部主裁として會
員へ事の序に、天底分歧の察氣術として紐育

ウオールド街^ウの金誘たる材料の過半出揃と分歧
期の接近と云ふ事を紹介して置いたが恰度今
日の情勢を云った者である、今日は尚議會の
雲行を案じ台閣の動搖説に懸念する一方取引
所法案此他種々雑多の賣材料に懼れ市場の
人氣愈々賣に偏したるが能く觀する時は寧ろ
材料以上に賣込れたる想を生じ来る在り、今
後尚引續き低落す、事あるも亦は例の人氣
作用により一種の人造相場を叩く者と見て近
く相場の分歧機を迎ふる者と見て不可なしだ

唯今の不勢は一月上旬の高價を現したる反動的波動として定數の大幅下押を爲すの運命免れ難き爲めである、敢て材料の如何を向ふ道もふい尤も此下押がある爲めに本年は別項の高直も出て市場殷賑時として立會場にイルミネーションを見ろ事が出来る、介讓者諸君風雲に乗ずる事を夢々忘るゝ勿れ

株の最好期は何月ホリヤ

此解釋を下す事は中々大々敷問題であるが是

を豫め研究して置いて思惑すると例しや遅速はあるにしても利益を得る事莫大であるから吾人は一生懸命調査を遂げて達觀した結果は本年秋期ホそ愈々諸株の沸騰期と断定を下した、尤も其前にも好況期はあるが而し勢力は到底比べものにならぬ、さらば如何ある材料により諸株の活躍を見るかと云ふに是は判る者でホ以断じて判る者でホいが假に見當を附けて見れば今鳴りをしづめて居る電燈の統一か……外債有利の成立か……外交上の新現象

か何にしても餘程面白い好材料が現れよう
殊に本年は畏くも一天萬葉の大君御即位の大
典を行せらる瑞祥輝き渡り年を迎へたる事と
て事業界の殷賑を極むるは云ふ迄も亦く永々
打續ける人心の不景氣觀も劃然として活氣漲
るに至るべし多望なる哉本年の株界よ

期米界

ソレ見給へ昨年の実収額は粟の如く悪くふい

ではおいか其れに外米の暴落と云ふ有力なる
壓迫が加つて、拾五圓台と云ふ珍しき安直を
見せた誰も斯人を安い直が出様とは思は
なかつた丈け十月以来はヒタ押しの一、二張で
あつた、併し其下げで多くの人は儲けたかと
云ふに例の高直覺へと云ふ事が附纏つて離
ぬ為め儲けた人と云ふ者は客筋になかろうと
は仲買店側の話であつた
大勢と云ふ者は争れぬ者であれほど東北地方の
災害が劇甚なるに其れを見ての低落又低落で

あるから、大勢ふる者には何れの場合でも勝つ事は出来ぬ昨年も或強氣の火の玉屋が吾人に米價貳拾五圓説を主張し熱心に硬化の可なるを説いて居た、吾人は腹の中で可笑くて堪らぬがナル程の一点張りで自説の責一貫を固執して目的を達した、其火の玉屋は誰あるう錚々たる地場で後には酷い目に遭つて今は辛うじて営業を續けて居るに過ぎない、扱米は豫想と大差おく収獲があつて豫定通り低落して又引返し氣味とおつて居る、流石氣を以て

波瀾を捲き起す本家夾けあつて随分仕手を苦め就中正米業者に痛手を負はせた事も少くはあらずまい、本年度の觀察は別項の通であるから前年逆境に立つた人は勿論米界に一旗揚げようと希ふ人は一番大に活動せねばならぬ

定期米の大勢

半ば人為に因て煽り上げたる期米はある事か貳拾參圓台の珍高直を見せ中流以下の者を苦めた事夥しく、其咎はイッ迫も持續して昨

年約貳百餘日の暴落を演じ續いて又百餘日の
激落とふりて馬鹿高に對する馬鹿安を演じて
拾五圓台を實現し極から極へと到達した
凡て相場なる者は、此三角状の如く極から
極へ必ず行く者であるから極を買って極でド
テンすれば可いのであるが、是が中々判らぬ
ので多くの者が苦むのも茲である、モ一
六ヶ敷のは極から極へ行く迄の間に種々の形
式よりふる波瀾があつて此波瀾に捲込れて産
を無くする人が頗る多い、而して斯く云ふ者

の此波瀾があつて、是相場は面白いので即ち
儲けるも損をするのも皆是だ、波瀾なしに極
から極へと、棒状に行つて仕舞へば相場
をすろ者は、夫れ故一旦天井なり底
直を見出したら大方針を定むると同時に波瀾
を恐れず却て巧に乗れば可いのだ、此事は判
り切つた事である、おれど今に至るも百人に一
人行ふ者が、ないから初心の士へ注意すると共
に此判り切つた事を再び述べて置く、尤も本
年は別項の通り安直を出す年廻りであるか

ら此直段を標的にして賣たり買たりをやるば
左程頭を痛めずとも目的を達する事が出来る
ドミカ迷はずに奮戦して貰いたい

株式の騰落

大正参年四月以降大正四年九月迄此間六ヶ月
に於ける株式市場の重要株に就て其天井値段
底値段並に運用法を示す左の如し

第一 東京株式取引所株

株式界のオトリリキにして其一昂一低が延

いて他の諸株に波及するは即ち本株にして如
何に重要視せらるゝかを識るべし常に穩健な
る歩調により騰落を為し苟も他の端株の如く
輕浮なる波動を實現せざるハ流石中央市場の
親玉株とけあつて豪い者あり

然るに多くの者は此株に思惑するを欲せず波
瀾多き新東株に全力を注ぐ者の如し、其理由
は波瀾の繁き新東株により利幅を多く獲んと
するにあり、一應尤な考へなれど波瀾が不自
然的に多き程失敗も多き者なるを以て利を得

るよりか資力を減せぬ方針を執てふるべく波
瀾の穏當なる東株に思惑を変するが安全なる
べし、儲ける事計りを狙つて居るもよけれど
資力の保護を忘るゝ勿れ、現に今回の暴落に
際するも其低落力は新東株に比し優に自然的
ふり

高直の標準

第一高直

百六拾圓

第二高直

百七拾五圓

安直の標準

第一安直

百参拾四圓

第二安直

百参拾圓

運用法 軟軍更に突貫し來らば好機接到と見
做し第一安直より第二安直を豫期して買始む
べし如何に悪材料流布するとも毫も騒かす買
方針を以て第一高直へ利東せ買を為せ、殊に
何か好材料突発して目醒しき引返しを示さば
猶豫なく質問券を利用せしよ

第貳 東京株式取引所新株

全國に亘つて最も注目され居るのが此株を

り、例の大阪筋は主として此新東株に思惑を
して居る却て當の東京勢よりか坂軍の方が着
眼も早くて多くの場合勝利を収めて居る時々
東京軍顔色無しで惨々ふ目に遭はされる事が
ある、却説新東株は昨年十一月上旬漸く情況
より脱出し順る健實なる歩調で漸騰したるが
天敵の示せる帰着点にて行間へ今や高直より
約拾貳圓安を演じ氣迷の形勢となり居れり、
然れども大勢上昂騰期に入りたる事とて他日
別項の高直を實現すべし

高直の標準

第一高直

百貳拾參圓

第二高直

百參拾五圓

注意 第貳高直は實現すべきにより利來せ買を忘る可らず
安直の標準

第一安直

百〇參圓

第二安直

百四〇圓

運用法 例へ百圓ドタを割ても構はぬ、百圓
を割る事は無論ふいから第一第二安直の中間
位より買始めを要す尤も安直で若干日數保合

ふ事となるから退屈せぬ様買辛抱が肝要であ
る、斯くて愈々上進を始めると終に第二高直
に達するから場面を見て利来せ買をする事を
必お忘れてはならぬ是が第一である

第参 日本郵船會社株

増資説並に航路受命の有望により政商筋の買
物一齊に現北百貳拾壹圓台に吹出したリと雖
も増資は或関係上断然出来ぬ事情あると一般
諸株の暴落に連北高直より四圓安とふりて前
途尚一段も二段も安直ある者の如し然り他の

株は兎も角獨り此株は政商連がののにて煽り
たり為め此咎め相場なかり可らぬで、一寸意
外とする低落を示す迄安心買ふり難かるべし
斯くて愈々低落を實現したる後の同株は力を
入れて買捲り、暴騰の期を待つべし、吾人
は飽迄も此株の目先安を信するが故に他の株
と等しき意見を述ぶる能はず要は目先安を期
待して傍觀し果して崩北直を見れば勇猛に突貫
買を為せと奨むるあり

高直の標準

第一高直

百貳拾七圓

第二高直

百參拾五圓

安直の標準

第一安直

百〇九圓

第二安直

實現せざる見込

運用法 右に示す第一安直を示せば買進の一点を以て第一高直に突貫すべし、若し第一安直を示さずして奔騰する事あらば其時に於て他の諸株が第一安直を終へたるか否やを参照して進退せば可なり

第四 富士瓦斯紡績會社株

綿絲安で兎角頭を擡げぬは遺憾なり、而して此迄も今日の市價に居据り者に非ず秋期活躍期に入らば思切つたる暴騰を實現すべし依て今は休養的保合と見て是も目立安直を豫期し其機到らば買進せざる可らず

高直の標準

第一高直

八拾貳圓

第二高直

九拾參圓

安直の標準

第一安直

七拾参圓

第二安直

七拾圓

運用法 第一安直を下被かば即時買始めて可
ふり第二安直は大に疑問とする処にして十中
の八九実現せざる見込あり

第五 鐘ヶ淵紡績會社株

此株が安い間はダメ也と一種のメートルにな
ると云ふ事迄前回教へて置いた其通り安い間
は諸株一齊面白くふい、其れで今度此株がモ
ー少し下へ行かば其処が諸株の底となるから

今から油断おく心懸けねばならぬ

例に因て營業成績は中々良好でドレーシテモ斯
界の覇者である、今は一般界り不勢に連れ安
直のお附合をして居る者の機一度が来れば本
株独特の氣勢を發揮して躍進し而も押目も待
つたもふしでズン／＼上がるから最近に来る
尚一つの安直は是非買ひたい者である

高直の標準

第一高直

百拾貳圓

第二高直

百貳拾圓

安直の標準

第一安直

百〇壹圓

第二安直

實現せざれば見込

第六 東洋汽船會社株

今回の航路問題で會社の重役は必至の運動をして居るが日く行くか行かぬの大関門である都合よく行かば株は一氣に引返すが、吾人の考では尚幾多の波瀾を生じてからであらば納まるまいと思ふ同社株主の爲には氣の毒である併し尚一回瓦落を演ずると妙な者で何か都

合の可い材料が湧いて来て跳返す事になるから左の歸着点を参酌し進退されよ

高直の標準

第一高直

参拾参圓

第二高直

四拾圓

安直の標準

第一安直

貳拾参圓

第二安直

貳拾圓

運用法 特種の事情あり株の事であるから此株ばかりは第二安直の出る迄買へぬ第二安直

が出たら安心して買へばよい高直の標準は右記の通りである

第七 東京電燈會社株

電燈統一も市民の大反對を喰つて不調となつた従つて三電燈は何れも一生懸命にふつて競争を續けて居るが當の東電は營業状態に著しき変化がふいので普通の市價を保つて居る。此株の将来は頗る面白い運命にある。早晩実現さるゝ統一問題の爲か或は他の材料に因るか何か判断は着かぬか買と置けば随分儲

かるに違ふいふけを言明するに憚らぬ、何を云つても燈界の豪物であるから是が中心となつて突嗟に一仕事やらに違ひない

高直の標準

第一高直 六拾五圓

第二高直 七拾五圓

安直の標準

第一安直 五拾五圓

第二安直 實現さる見込

○注意 此株は第二高直以上に昇騰する氣勢見ゆ

るを以て含み置れよ

第八 製糖會社株

製糖會社の建株は東京取引所にて約十種計りある、是を一々説明しては煩に堪へふいから前回と等しく代表株として台湾製糖を撰定し是により解説を附くる事とせり、白糖株は昨年十二月七拾参圓擲込上進したるが爪哇糖價の打撃を受けけて約六圓も引落した其処で前途でありが未だ安心買には少し早ハ様に思はれり尚崩れて更に新安直を出さなきや先づ傍觀と

出懸けて左項の直頃を待つか可い

高直の標準

第一高直 七拾五圓

第二高直 八拾圓

安直の標準

第一安直 六拾五圓

第二安直 六拾参圓

運用法 第一安直を實現せば買始めて可ふり
或は第二安直を見がかり計りがたし

第九 鬼怒川水力電気會社株

色んな攻撃を八方から蒙た在れど近頃は一向
攻撃説を早にせふくなつたソレモ其苦今の堂
々たる第一流會社の仲間入りをしき基礎を漸
く固つたからである、此株も電燈株が高けれ
ば同一の歩調の上向く者であらから今より安
い処は買付込み機を待つが面白からう

高直の標準

第一 高直

参拾五圓

第二 高直

四拾圓

安直の標準

第一 安直

貳拾八圓

第二 安直

實現止見込

○注意 若し貳拾五圓ドタを下割り如き不埒
を演じたれば直に追撃賣を為すべし必お巨
利あり

第拾 寶田石油會社株

今や市場の人氣は石油株が中心となつて石油株をゆりない者は人ごふいかの様に云は化する。何も石油株を好でゆらなくともよさそうな者だが、其処は例ハロスター熱が中々醒めぬ。いのだ、又實際に於て今迄は五田、拾田、昂騰は朝飯前であつた。かゝり思惑心が是に集中するも無理のない話である。

左らば此株は将来ドウカと云ふに吾人は這般の如く熱狂的高直は當分望む事出来ぬと思ふ。

其理由は別に見る処のあるからである。故に諸士はイツ迄も石油が大動きに動くと思はず。却て他の株が循環的に動くものと見て、紡績株、電燈株、石炭株の内より撰定してはドーゾヤ高直の標準

第一高直

九拾八圓

第二高直

百拾圓

安直の標準

第一安直

八拾貳圓

第二安直

七拾五圓

第拾壹 日本石油會社株

大要寶田石油に同じ

高直の標準

第一高直 百拾貳圓

第二高直 百貳拾五圓

安直の標準

第一安直 九拾六圓

第二安直 八拾五圓

運用法 兩石油共果して第一安直へ引落し來

らば買始て可ホリ其此迄傍觀

第拾貳 東京瓦斯會社株

電燈の競争で需要が餘程減少したので稀有の
安直に引落した瓦斯株もソウは無暗に下げら
者で無い刻一刻に底直に接近して居るのじや
而して會社側でも何か新計畫をやること事
あるから目先尚不勢を示さば高直六拾圓台を
標的に買思惑を立てたがよい

第拾参 大阪株式取引所株

昨年拾月アウヤ百圓の大関門を割らんとした
大株も辛ふして岩本一派の防戦にて喰止め爾
來頗る穩健なる歩調を以て漸騰し百貳拾圓を
突進するの氣勢を演じたりしも波動の变化は
免れ難く今は百圓飛台の不況にあり、然りと
雖も最早分界線に接近しつつある事故徐々買
方針を立てざる可からず、諸君諸士前章の本株
新東株欄を参酌し進退さるべし、諸士の忍耐
如何により面白き収利を得る毫も難からず

高直の標準

第一高直 百参拾圓

第二高直 百四拾五圓

安直の標準

第一安直 百〇五圓

第二安直 百〇貳圓

即ち第二安直は曩日の安直と顔合せず
るにあり

前掲各章は本年三月拾日日本場迄に實現した
る各種株式の價位に基き精細緻密なる専門的

技術を以て将来を計量したるものあり急激な
る不慮の変動に遭遇し著しき大波瀾を生ぜざ
る限りは概ね此の直段に達し近通するものホ
ることは前來数回の四市場達観秘録が歴々其
の实例を証する所にして諸君が少くも本秘録
に鑑みらるゝに於て些の失ふ所なくして却て
得る所多大なるべきを確信す而して何時にて
も波動の変異を認めて随時質問券を寄せらる
る時は速に熱心調査を為せる即妙の應戦策を
貢献すべきものあり

生糸の大勢

高いものは獨り生糸である、定期の九十円揃
から押目らしき押目を見せず昨年の高値を突
き抜いて百〇四円台へ噴出した勢は凄しき事
ではぶいか、吾人が昨秋発表した本巻の生糸
欄に此暴騰を教へて置いたが序に昨年の本書
を出して参照して貰いたい、扱今後の生糸界
は如何に新高直へ奔騰したにせよ爰當分は買
へぬ警戒を加へたが可からう歩調から考へる
と尚々上昇する様に見へるが時期から割出し

ても少し早いから買思惑は見送るに限る

賣買方針

一戻りあるとも尚安し結局九十五圓内外迄
再落すべし而して若干日保合後今度は急
激に百十五圓の高直に沸騰すべし

綿絲の大勢

綿絲は実に意外の安直へ落した者だ、今少し
て百貳拾圓を割る処であつたが利喰やら川口
筋の買物が輻湊して約八圓方引返した、返し
たかと思ふと又暴落して綿絲獨特の波瀾を突
現して居る其処で今後は如何にと云ふに茲迄
引落したからには何か綿絲界に良くよい潜勢
力がある為で結局百十五圓見當迄引落さば
真の立直りは覺束ないと思ふ、だに因て是も
當分買方針を見合せ右記の安直が現れれば買

仕込高直百四拾圓を標的にしたる可い

期米賣買方針

未だ舊曆は二月の初旬である、立夏の節は素より清明の節すら未だふる今日に於て何人も意外とする米價の低落位を發表せば、人々疑心と嘲笑を以て殆ど信する者なからうが、吾人は諸士に代つて先月中旬約一週間と云ふ者は其所に立籠て一生懸命に調査をした、其結果を基礎とし、獨特の觀察を為さば本年は作柄の如何を問はず大なる低落を實現する事と云ふ、十世斯くの如き大低落を示すかと云ふに前

にも云ふ通り、前年の脱線の大狂騰がいつ迄も反動的に影響するるのである、要は脱線的に法外な大極相場を演じた以上他日一度は此反對に脱線的なる法外な大極相場を演じよと云ふ者でふいそが理として當然じや、扱賣買方針であるが左項の歸着点を参酌し運用法と各月欄の示す方法に連じ仕懸けを為さば例へ大波瀾に遭遇するとも不利を見る事なからべし、尤も各月の高低指示欄により目先賣買を為す人は戻り賣押目買の意義に逆はず進

退するを要す、決して直頃並に氣配に飛附か
か又追撃する事勿れは是最も所要なる事あり

期米帰着點

高直の標準

第一高直 拾九圓八拾錢

第二高直 貳拾圓九拾錢

○注意 第二高直の實現は極時日あり

安直の標準

第一安直 拾六圓五拾錢

第二安直 拾五圓

運用法 第一高直の拾九圓八拾錢に達せばナ
ンピン賣を開始すべし、而して暴落を示せば
第二高直の實現如何を諮問されよ、資力豊富
ある人は第一高直より第二高直迄平均賣を為
し第一安直に於て警戒し、更に百丁戻りを待
ち第二安直を標準に賣たり
注意するは第二高直の實現は稍や時日遠きを
以て第一高直を上抜くとも第二高直に達せず
して第一高直と第二高直の中間位に於て正數
形勢一変すべき者と信ず

期米各月の賣買方針

四月 癸會より戻りあるを待て賣、中旬の不
勢は買

五月 押目買中旬安くも又買なり

六月 此月に於て天井を為す見込なり、即ち

運用法並に帰着点に示す直段を参酌し

上旬の沸騰に軟化すべし

七月 高直覚への買物に二番天井を為すし雖
も戻り賣

八月 此月大幅なる昂騰ある月なるが故に上

旬の不勢は買

九月 強き氣勢を有するも又忽ち小崩れを突

現するを以て吹直賣なり

以上は各月の豫想を列記し聊か参考の料とす

せり形勢の変化は勿論或は時日の遅速は素よ

り免かれざる所、庶くば常に場面と四圍の状

況を考究し機敏なる去就進退をらんことを

東京之市場に就て

本紙には相場の変化より此他一切の記事を掲
載致候間なるべく御購讀相成候様致度候

質問券の事

質問又は諮問事項の記述は成るべく簡捷にし
て解し易からん事を希ふ

質問券は第三者へ流用を許さず、且返信料添
附なき質問は一切回答致さず候

秘密電報の事(凡て東京市價にて打電す)

秘密電報無料券送呈致候間御希望の條件記入
の上実費郵券拾銭封入し御送附相成度候

秘密電報

- キ(期米)カ(株式)ウ(賣)ア(買)モ(戻り)才(押目)
- シ(新東株)ホ(紡績株)工(圓台)千(拾錢台)メ(目先)テ(手詰)

四市場達観秘録 畢

大正參年參月拾五日印刷
大正參年參月二十日發行

不許複製

著者 時田尚陽

發行所 東京市京橋區築地丁目十九番地
時田尚夫

印刷所 東京三市場社

電話京橋 三〇七七番
振替口座 二六〇二三番



終

